

食道癌術後経過観察中に発見された小腸間膜デスマイド腫瘍の1例

高橋 宏幸¹⁾ 三上 公治¹⁾ 池田 裕一¹⁾
三宅 徹¹⁾ 平野由紀子¹⁾ 平野 公一¹⁾
東 大二郎¹⁾ 二見喜太郎¹⁾ 前川 隆文¹⁾
太田 敦子²⁾ 岩下 明憲²⁾

¹⁾ 福岡大学筑紫病院外科

²⁾ 福岡大学筑紫病院病理部

要旨：小腸間膜デスマイド腫瘍の1例を経験したので報告する。症例は58歳，男性，食道癌術後経過観察中に腹部CTで発見された。PET-CTで軽度の集積を示し，食道癌の転移再発の術前診断で開腹手術を行った。腫瘍は小腸間膜内に存在する7cm程の白色硬結で，空腸動静脈第1枝を巻き込んでいた。病理所見では悪性は無いものの，紡錘形の細胞が柵状に配列しており，間質は部分的に膠原線維が増生する，小腸間膜由来のデスマイド腫瘍と診断された。現在術後1年で再発所見はないが，今後も慎重な経過観察が必要と思われた。

キーワード：小腸間膜，デスマイド腫瘍，食道癌，PET-CT